

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（11月）

留学先：The University of Findlay

氏名：本田 涼哉

フィンドレーの11月は徐々に寒さが増しており、防寒グッズが欠かせない日々が多くなってきました。時折、10度を超える日もありますが、その日は暖かさに感謝して一日を過ごすようにしています。福井の冬とは異なり、気温が低くても、晴れの日がほとんどで、まだ雪もそれほど降っていないので、その点においては、心地よく日々を過ごしています。それでは、今月の報告をしていきます。

◎部活動 **Go! Oiler Nation!**

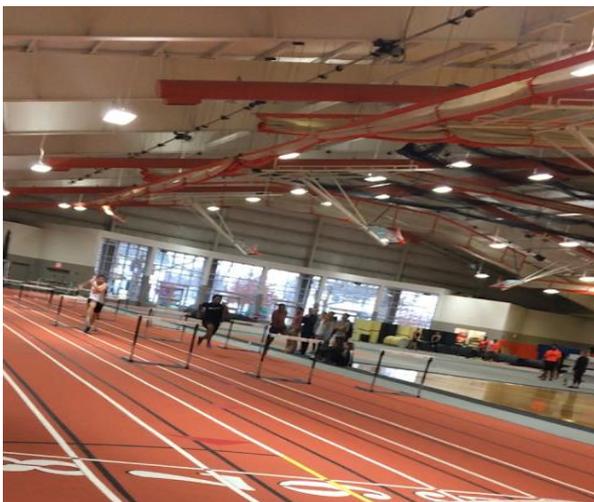
フィンドレー大学の留学において、何かこれまで誰も経験したことのないことを経験してみたい、現地の学生との交流を密なものにしたいという目標を達成したいと思い、フィンドレー大学の留学に臨みました。しかし、現地の学生のコミュニティに所属し、人間関係を築いていくというチャンスを得ることはなかなか難しいと感じました。なぜなら、日本の大学のようにサークルというものは月に1回のミーティングしかなく、頻繁に交流を図れる機会を得ることはできないからです。

そこで、自分が高校時代から取り組んできた陸上競技が何か友達を作るきっかけになるのではないかと考えました。陸上競技は日本でも取り組めると選択を渋ってきましたが、それ以外に方法がないと思い、思い切って陸上競技部に入ることに決めました。12月から春学期の終わりにかけて、フィンドレー大学の名前を背負って大会に出場します。

フィンドレー大学のすべての部活を総称して **Oiler Nation** と呼ばれています。かつて、炭鉱で栄えたフィンドレーであることから、**Oiler** という名詞が使われています。

部活動に登録するにあたって、様々な発見がありました。まず、部活動に登録するためには、トライアウトを受けなければなりません。特に、アメリカンフットボールといった球技のチームに入る場合はトライアウトを受ける必要があります。私の場合は、途中からの登録であったためか、理由は明確でないのですが、トライアウトを受けず、自分の競技の自己記録を提出するだけで参加することが出来ました。さらに、特に運動系の部活動では、様々な面でのサポートが非常に豊富です。トレーニングジムや選手専用の医務室、さらに試合用のユニフォームやスパイク、バックパックやパーカーまで無料で支給され、財政面でのサポートが非常に整っており、感銘を受けました。このような環境は日本の大学での数少ないのではないかと思います。

最初は、チームに入るにあたって、友達ができるかどうか不安でしたが、みな、温かく迎え入れてくれ、今ではチームメイトの大半が仲良く接してくれます。これからもさらに交流を深めて、蜜な人間関係を築くとともに、自らの英語力も伸ばしていきたいと思います。



いつも練習しているインサイドトラック



大学から支給されたもの

◎Fukui Reception (Nov. 6th)

11月6日に福井県を代表する多くの企業で活躍する社会人の方々がフィンドレーに訪れ、福井県の大学に留学、および短期プログラムで滞在したことのあるフィンドレー大学の学生や、私を含める現在フィンドレー大学に留学している日本人学生や日本語学科の先生方がフェル学長のご自宅に招待され、レセプションを行いました。

従来のレセプションとは異なり、福井県の実業家の方々をお招きして行われました。福井県の実業家として活躍する方々から直接たくさん貴重なお話を聞くことが出来、自らが留学を終え、大学を卒業したその後のことを考えるにあたって、非常に刺激の多いお話をたくさん聞くことが出来ました。また、同じ地元出身ということで、地元である福井に関する話も久しぶりにすることが出来、久しぶりに心からリラックスして時間を過ごすことが出来ました。



Fukui Reception での集合写真



フェル学長と福井県からの留学生

◎Phonics and Foundation of Literacy

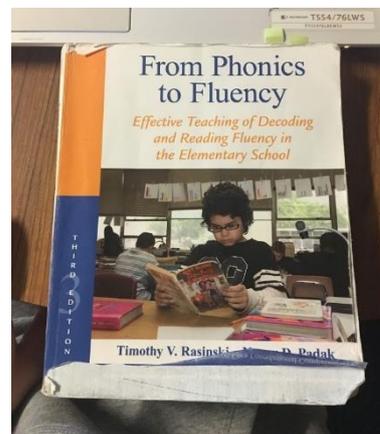
秋学期に受けている授業で、最も学びが多いのがこの Phonics の授業です。この授業は、これまで福井大学からフィンドレー大学に留学された先輩方の多くが受講されてきた授業ですが、本報告書では、私自身の視点から見た授業内容とその学びについてここで述べていきたいと思っております。

この授業は Dr.Baer という先生が担当で、この先生は福井大学に5月に訪問されており、留学する以前に交流があったため、自分がどのような人間で、どのように日本で過ごしていたのかをある程度知っているという点で、安心感をもって授業を受けることが出来ました。授業の中で、時折、先生が福井で経験したことや、福井の学校の良さなどについて言及していただき、現地の学生に日本の、福井の教育がどのようなものであるかを伝えていただきました。また、私自身も、現地での教育を比べながら、新たな視点から福井の教育について考えることができ、そのような点でも、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

授業内容は、英語を第一言語として、どのように読み書きを教えるかということが主な内容として扱われています。その教授法として Phonics という教授法が取り上げられており、日本の小学校英語教育で活用できそうな活動がたくさんありました。毎授業ごとに教科書を多いたときで25ページ読み、パワーポイントなどにまとめてグループ内で発表というハードですが、英語力の伸長という点でとても成長の機会が多い授業でした。

今月の報告は以上になります。来月の報告書では、学期末、部活動の大会、冬休みについて報告していきたいと思っております。何か質問等がございましたら、以下のメールアドレスへお気軽に連絡ください。

(フィンドレー大学 本田 涼哉 hondar@findlay.edu)



授業で使った教科書

(読み込んでボロボロになってしまいました)